戦略的イノベーション創造プログラム (SIP)

2023年度

研究開発実施報告書

SIP 課題名「ポストコロナ時代の学び方・働き方を実現する
プラットフォームの構築」

研究開発テーマ名「自分らしく生き、自分の意志で決定できる
社会をつくる学びの北海道モデルの構築と展開」

研究開発期間： 2023年4月1日 ～ 2024年3月31日

研究開発責任者	氏名	吉野 正則
	所属機関	北海道大学／（株）日立製作所
	部署	社会・地域創発本部
	役職	副理事・本部長・特任教授／シニアプロジェクトマネージャー

研究開発成果等の概要

2023年度 目標と達成状況

● 目標の達成に向けて順調に進捗

研究開発テーマ	2023年度の目標	達成状況
テーマ全体	「北海道SIP連絡会議」の発足	会議の構成員、運営体制を決定 した。北海道庁科学技術振興担当局長が本会議の委員長に就任する。札幌市、岩見沢市、伊達市などの自治体が構成員に加わり、北海道での本SIP事業を推進する。2024年1月31日に北海道SIP連絡会議幹事会（拡大）を開催し、会議の目的や体制などについて関係者間で合意した。
	ショーケースの実現に必要なコーディネート体制の提案	提案によりコーディネートのための運営体制が決定。11月からコーディネートを開始し、3月のサブ課題Aのイベント実施に向けて支援に着手。
個別テーマ1 「初等中等教育を中心とした『学び』の場の構築及び効果検証」	3rd Placeの機能整理、設置候補に関する調査	岩見沢市内の全ての 小学生（4～6年生）、中学生（1～2年生）に3rd Placeに関するアンケート調査を実施した。
	学校教育機関の連携先候補の選定（札幌市、岩見沢市）	小学校2校、中学校2校、高等学校2校 との間で調整を開始した。
	中高生の学びに関するニーズ調査	11月25日にニーズ調査のための学びあいワークショップ「Co-Write Camp」を 中学1年生から高校3年生 までを対象に開催した。
	地域における現状を明らかにするためのアンケート調査	岩見沢市内の全ての 小学生（4～6年生）、中学生（1～2年生）に学びに関するアンケート調査を実施した。
個別テーマ2 「探求力・主体性・創造性・協調性を高めるコンテンツの開発」	既存のコンテンツの探索・活用に向けた調査、検証	下記の 調査、検証 を実施した。 【調査】 ・NHKエンタープライズとの連携による教育コンテンツの探索、活用に向けた調査 ・日本総研との連携による教育コンテンツの探索、活用及び評価指標に関する調査 【検証】 ・12月 ハートフルネスワークショップ 他 ・3月 NHKエンタープライズの自然映像を活用したワークショップ ・3月 日本総研のFutures Literacyを活用したワークショップ
	雪と氷のプログラム開発のための体制整備、コンテンツの開発	北海道教育大学との連携により実施体制を整備した。1月30日に岩見沢市内の 中学2年生を対象にした授業 を実施した。また、2月17日から18日にかけて、岩見沢市内で氷と雪の学びプロジェクトを開催した。
	創造性育成のための美術ワークショップのプロトタイプを開発・実施	武蔵野美術大学との連携によりプロトタイプを開発中。検証のため、10月1日から7日にかけて 課題探索型アプローチ 「クリエイティブワークショップ」を岩見沢市内各所で実施した。2月26日には アート思考プログラムアプローチ 「VCP Essential」を内部関係者向けに実施した。
個別テーマ3 「教育機関と地域・社会との接続による新たな働き方の場の構築及び効果検証」	課題解決DXコンソーシアムの設置、実施計画を作成	共同研究型インターンシップの実施を目的とした 課題解決DXコンソーシアム運営委員会を発足 させた。委員会での検討を基に、 共同研究型インターンシップの実実施計画を策定 し、参加企業の募集を開始した。
	人材育成等の「場」について検討、実施計画を作成	「海洋オープンデータでサイエンスを始める」を提供するオンラインプラットフォームの設計・構築 を開始した。プラットフォームを利用者にプレ公開することでフィードバックを受け、実施計画を随時ブラッシュアップする。
個別テーマ4 「ショーケースの構築」	自治体との情報共有、連携の推進	10月17日開催の全体キックオフ会議及び11月30日開催の参画機関会議を通じて 自治体との情報共有、連携 を深化。岩見沢市内でのSIPの推進について、 市幹部と学校関係者のミーティング を開催した。
	ショーケースのコンセプト策定	PD、内閣府、JSTとともにショーケースのイメージを共有し、実現に向けた実施体制を構築した。

目標の達成に向けて順調に進捗している。

2023年度の主な成果は以下のとおりである。

・ 研究開発テーマ全体

北海道内の自治体等とSIPの実証に関する情報共有を行う会議体「北海道SIP連絡会議」を発足させた。関係者間で調整を進め、会議の目的や構成員、運営体制について北海道庁、札幌市、岩見沢市、伊達市などのコアメンバー間で合意を得た。

また、本 SIP 課題がめざすショーケースの実現に向け、A~C のサブ課題を含めた個々の研究成果の道内自治体への社会実装に必要な地域のコーディネート体制を提案し、全サブ課題に関わる取組みとして「北海道地域コーディネーター」の運用体制が決定した（2023 年 11 月 24 日「北海道地域コーディネーターの設置について」）。

・個別テーマ 1 :

「初等中等教育を中心とした「新たな『学び』」の場の構築及び効果検証」

1st Place（家庭）、2nd Place（学校・職場）に加え、「新しい『学び』」に触れることができる、世代、企業、地域、学校を超えた学びの場である“3rd Place”の設置に向けて、3rd Placeに必要な機能・性能や地域における現状を明らかにするための調査を実施した。岩見沢市の協力の下、市内のすべての第 4 学年から第 6 学年の小学生及び第 1 学年から第 2 学年の中学生に 3rd Place、学びに関するアンケート調査を行い、小中学生の学びや居場所に関する実態、ニーズを抽出した。

学校教育機関の連携先の候補として、小学校 2 校、中学校 2 校、高等学校 2 校と調整し、次年度以降の協力体制を構築した。また、中高生の学びに関するニーズを調査するためのワークショップを開催した。ワークショップの実施により、コンテンツの集客力や収益性、満足度等について、現時点の到達度や持続化に向けた課題がわかった。

・個別テーマ 2 :

「探求力・主体性・創造性・協調性を高めるコンテンツの開発」

学校教育における探求力・主体性・創造性・協働性を高めるコンテンツの実装のため、既存のコンテンツの探索、活用に向けた調査及びワークショップの実施による検証を開始した。

共同研究開発機関の北海道教育大学と連携し、北海道の自然資源を活用した学び（雪と氷のプログラム）の開発実施体制の整備及び岩見沢市内での雪と氷の学びの試行を行った。また、共同研究開発機関の武蔵野美術大学との連携し、創造性を育む美術ワークショップのプロトタイプの開発に着手した。プロトタイプ開発では、課題探索型アプローチによるワークショップ開発の試行及びアート思考プログラムアプローチによる VCP の関係者向け体験会を実施した。

・個別テーマ 3 :

「教育機関と地域・社会との接続による新たな働き方の場の構築及び効果検証」

地域、自治体、企業との連携による学生の学びの場、また地域、社会における新たな働き方を実現する場として、「課題解決 DX コンソーシアム」を発足した。また関連自治体との合意形成、提携企業との調整を開始した。

・個別テーマ 4 :

「ショーケースの構築」

本 SIP の全体キックオフ会議や本研究開発に関わる機関が集う参画機関会議を通じ、自治体との情報共有、連携を深化させた。また、岩見沢市内での SIP の推進について、市の幹部と学校関係者のミーティングを開催した。